

忠実な管理人と怠惰な管理人のたとえ話

<p>紀元 29 年仮庵の祭りの後 ルカ 12 章 使徒たちはじめ教会時代の信者たちに</p>	<p>紀元 30 年過越の祭り マタイ 24 章 43～ 大患難期の諸国民に</p>
<p>(再臨の第一段階である「教会の携挙」を待ち望むようにとの勧め)</p> <p>35～38 節 <u>腰に帯を締め、明かりをともしていなさい。主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸を開けようと、その帰りを待っている人たちのようでありなさい。</u> 帰って来た主人に、目を覚ましているのを見てもらえるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばに来て給仕してくれませう。主人が真夜中に帰って来ても、夜明けに帰って来ても、そのようにしているのを見てもらえるなら、そのしもべたちは幸いです。</p> <p>二重下線部は、大患難期の信者たちが切迫した思いで待っているように、教会時代の信者たちもそのようでありなさいという勧め</p> <p>(忠実で賢い管理人)</p> <p>42～45 節 主は言われた。「では、<u>主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人</u>とは、いったいどれでしょうか。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。</p>	<p>(マタイ 24 章 43 節以降は、「教会の携挙」が終わったあとの大患難期の諸国民に宛てた預言なので、ルカ 12 : 35～38 に対応するイエスのことばは、ない)</p> <p>(忠実で賢い管理人)</p> <p>45～47 節 <u>ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべ</u>とはいったいどれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。</p>

<p>(怠惰な管理人、ただし信者)</p> <p>45～46 節 もし、そのしもべが心の中で、「主人の帰りは遅くなる」と思い、男女の召使いたちを打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に酔ったりし始めるなら、そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、<u>不忠実な者たちと同じ報いを与えます。</u></p> <p>不忠実な者たち＝アピストス、不信者</p> <p>同じ報いを与える＝同じ割り当て地に置く、同じ扱いをする、同じ原則でさばく</p> <p>扱いや原則の内容は、48 節の波線部</p> <p>信者が不信者と同じ原則で裁かれる (注 1)</p> <p>(聖書を学んでもイエスの神性や復活を信じない偽信者の管理人)</p> <p>47～48 節 主人の思いを知らず用意もせず、その思いどおりに働きもしなかったしもべは、<u>むちでひどく打たれます。</u>しかし、主人の思いを知らずにして、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません。<u>多く与えられた者はみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます。</u></p> <p>むちで打たれる・・・火の池。刑罰に軽重あり</p>	<p>(悪いしもべ＝偽信者の管理人)</p> <p>48～51 節 しかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、<u>偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ざしりする</u>のです。</p> <p>偽善者たち＝パリサイ人や律法学者たち</p> <p>同じ報いを与える＝同じ割り当て地に置く</p> <p>泣いて歯ざしりする＝火の池での状態の表現</p> <p>そこで＝火の池で (不信者の最終的先行)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注 1：信者が不信者と同じ原則でさばかれる裁きとは、「キリストのさばきの座」(Ⅱコリ 5：10、Ⅰコリ 3：11～15)。行いに応じて、かつ、どれだけ神のことばを知らされていたか、理解していたかによって、裁かれる。怠惰な管理人であった信者は、信者であるから救いを失うことはないが、キリストのさばきにより、冠なし、権威なしの者としてメシアの王国千年間を過ごすことになる。

ミナのたとえ話とタラントのたとえ話

<p>紀元 30 年春エリコにて ルカ 19 章 当時のイスラエルの人々に</p>	<p>紀元 30 年過越の祭り マタイ 25 章 大患難期の諸国民に</p>
<p>たとえ話の目的・・・イエスがエルサレムの近くに来ていて、人々が神の国がすぐに現れると思っていたので、そうではないことを教えるために</p> <p>12～13 節 イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が遠い国に行った。王位を授かって戻って来るためであった。彼はしもべを十人呼んで、彼らに十ミナを与え、『私が帰って来るまで、これで商売をなさい』と言った。</p> <p>十人のしもべは、全員同じ額、それぞれ一ミナを預かった。一ミナは、労働者の収入にしておよそ 3 カ月分。</p> <p>14 節 一方、その国の人々は彼を憎んでいた。彼の後に使者を送り、『この人が私たちの王になるのを、私たちは望んでいません』と伝えた。</p> <p>指導者層によるメシア拒否を指す</p>	<p>たとえ話の目的・・・「教会の携挙」後の大患難期の諸国民に関する預言。大患難期の信者はその信仰を発揮して忠実に働く。忠実に働く力が主から与えられるからである。不忠実な者は偽信者。</p> <p>14～18 節 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。彼はそれぞれその能力に応じて、一人には<u>五タラント</u>、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。するとすぐに、五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた。一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。</p> <p>しもべたちの能力に応じた金額。 一タラントは、労働者の収入にすると 6,000 日分。1 年に 300 日働くとすると、20 年分。 五タラントになると、年収の 100 年分。</p>

15 節 さて、彼は王位を授かって帰って来ると、金を与えておいたしもべたちを呼び出すように命じた。彼らがどんな商売をしたかを知ろうと思ったのである。

16～17 節 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』主人は彼に言った。

『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

18～19 節 二番目のしもべが来て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで五ミナをもうけました。主人は彼にも言った。

『おまえも五つの町を治めなさい。』

20～21 節 また別のしもべが来て言った。『ご主人様、ご覧ください。あなた様の一ミナがございます。私は布に包んで、しまっておきました。あなた様は預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取られる厳しい方ですから、怖かったのです。』

19 節 さて、かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て彼らと清算をした。

20～21 節 すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はほかに五タラントをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

22～23 節 二タラントの者も進み出て言った。『ご主人様。私に二タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、ほかに二タラントをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

24～25 節 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』

22～23 節 主人はそのしもべに言った。

『悪いしもべだ。私はおまえのことばによって、おまえをさばこう。おまえは、私が厳しい人間で、預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取ると、分かっていたというのか。それなら、どうして私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、それを利息と一緒に受け取られたのに。』

24～25 節 そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナをこの者から取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』

すると彼らは、『ご主人様、あの人はすでに十ミナ持っています』と言った。

26 節 彼は言った。『おまえたちに言うが、だれでも持っている者はさらに与えられ、持っていない者からは、持っている物までも取り上げられるのだ。

教会時代の怠惰な信者は、キリストの裁きの座でさばかれて、報奨なし。メシアの王国においては冠なし、権威なき者となる。

ただし、救いを失うことはなく、メシアの王国に入る。

27 節 またさらに、私が王になるのを望まなかったあの敵どもは、ここに連れて来て、私の目の前で打ち殺せ。』

紀元 70 年のエルサレム陥落、それに伴うユダヤ人 110 万人の死を預言する

26～27 節 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集めると分かっていたというのか。それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。』

28 節 だから、そのタラントを彼から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。

29 節 だれでも持っている者は与えられてもっと豊かになり、持っていない者は持っている物までも取り上げられるのだ。

30 節 この役に立たないしもべは外の暗闇に追い出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。』

外の暗闇・・・不信者の最終的行先である火の池を指す。この役に立たないしもべは、偽信者である。大患難期には、信者であるならば、役に立たない怠け者はいない。なぜなら、一方でいろいろな事象を通して神の存在と力が明確に示され、他方で信者には忠実に働く力と神からの守りが与えられるからである。その例は、14 万 4 千人の宣教師たち、二人の証人など。